

# 第14回「杉並区教育ビジョン2022」意見交換会 報告書

開催日：令和4年11月10日  
会場：神明中学校

## 「ちがいを認め合い、自分らしく生きる」ためにできること

「杉並区教育ビジョン2022」では、誰もが教育の当事者となるうえで、共に尊重し、大切にしたいこととして、「学び合い、信頼をつくり、共に生きる」「ちがいを認め合い、自分らしく生きる」「誰もが社会の創り手として生きる」の3つを掲げています。今回の意見交換会では神明中学校の2年生が「ちがいを認め合い、自分らしく生きる」ために今できることと、将来できることを考えました。



会場の様子

### ①「しあわせ」とは何か。

冒頭、事前に行った授業の内容を振り返りました。事前授業では「最近自分がしあわせを感じたこと」を思い起こしながら「しあわせとは何か」ということを考えました。

「しあわせは誰かと関わることで生まれるのではない」「自分一人ではしあわせは得られない」など、周りの人のおかげでしあわせを感じることができるのではないかと多くの生徒が考えていました。

### ②「ちがいを認め合い、自分らしく生きる」ために

自分も周りの人もしあわせになるためには「ちがいを認め合い、自分らしく生きる」ことが大切ではないのか、ならば自分たちに何ができるのだろうか、先生が問いかけました。

まずは個人でワークシートに自分の考えをまとめる作業を行いました。そして、ペアワークによる意見交換を行いました。自分の意見を発表し、相手の意見を聴き、お互いが質問をし合いながら二人で考えを深めていきました。



生徒が会場内を巡りながら、次々とペアを作り多くの人と意見交換を行いました。

「自分と違う意見を肯定的に受け取るようにする」

「違いを個性と考える」「真似をして合わせようとしない」「違いを認識することと同時に共通点を見つけることでお互いを認められる」など、さまざまな意見を出し合っていました。多くの生徒が「自分」と「周りの人」の両方を尊重することを大切に考えていました。

### ③振り返りとまとめ

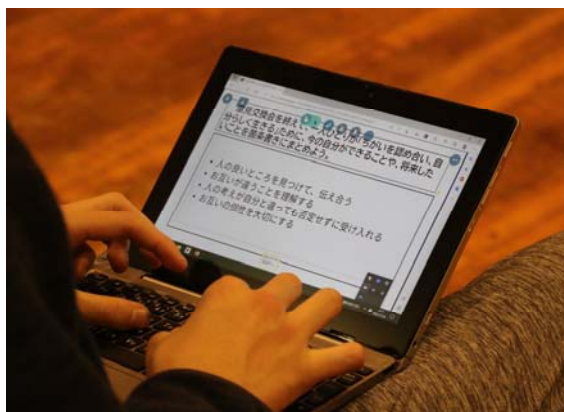
意見交換を終え、再度「ちがいを認め合い、自分らしく生きる」ためにはどうしたらいいのかを一人ひとりが考えました。

「部活の練習メニューをみんなで話し合いながら決めていきたい」「さまざまな人との交流を大切にしたい」「授業中に意見を言えるよう頑張りたい」など、意見交換の前と比べ、「こうしたい」という積極的な表現に書きぶりが変化した生徒が見受けられました。

最後に何人かの生徒が自分の考えを発表してくれました。

ある生徒は、「たとえ理解できなくてもいいから、理解しようと努める」と理解しようとするこそが重要であると話してくれました。さらに「人を尊重するためには、まずは自分が自信を持てるようになり、余裕のある人間にならなくてはいけない」と将来の自分についても話してくれました。

他にも「違うことを恐れないことが大切。日本人はなぜか違うことを恐れてしまう。違うことを否定的にとらえたり、意識したりしないようにする。」と話してくれた生徒や、「自分と違う意見は自分を高めるための貴重な材料である」ということを「相手の意見は自分の宝物」という言葉で表現しながら話してくれた生徒もいました。



意見交換の後、タブレットに自分の考えをまとめました。



発表をする生徒

### 意見交換会を振り返って

神明中学校では事前授業で、自分の短所を長所に置き換えることはできないか、ということを考えました。そうしたこともあってか、「違い」を「個性」や「自分の視野を広げるもの」と肯定的に捉える生徒が多くいました。生徒たちの意見に触れ、自分と人との違いを肯定的に捉えることが、相手を尊重するコツなのではないかと感じました。

また、今回の意見交換会は学校運営協議会の委員や教育委員会の職員も参加しました。生徒たちはペアワークの際、参加した大人たちにも積極的に話しかけてくれました。自分の考えを話すだけでなく、大人の意見を聴き、自分の考えを深めていこうとする真剣な生徒の姿が印象的でした。

第14回「杉並区教育ビジョン2022」意見交換会 報告書

・開催日 令和4年11月10日

・参加者 神明中学校2年生・学校運営協議会

令和5年1月 編集・発行 杉並区教育委員会 庶務課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111